

## 『洋服の魔法』

田中興産株式会社 armoire caprice 堺高島屋店

林 貴子

3月のまだ寒さが残る日のことでした。スタイルが良く綺麗な女性のお客様が旦那様と一緒に来店されました。旦那様が「これはどう？」と何着も見せているようでしたが奥様はうーん…と浮かない様子でしたので、「何かお探しですか」とお声をかけました。接客をしていくうちに、奥様は手術をされて片方の胸を切除したことを話してくれました。もともとのバストも大きく、今までは体のシルエットを出すようなフィットしたデザインが好きだったこともあり、お持ちの服は全てアンバランスな胸をより強調してしまうものばかりとのことでした。「もう何を着たらいいかわからなくて…」と涙目になってお話しくださいました。

何がいいのかな？と聞かれた私。正直、「どうしよお」と心で叫んでいました。10年近く服の販売員として接客をしてきて初めてのシチュエーションです。ロールプレイングの練習でもこの状況は一回もしたことはありません。ですから内心とても焦っていました。でも、ここで失敗するわけにはいかない。もし間違っただけを提案してしまったらこのお客様をさらに悲しい思いにさせてしまうかもしれない。そう思い直し、頭の中をフル回転しお店の服でコーディネートをしました。バストの形を出さないような硬めでハリのある生地、しかしながらスタイルが良いのが分かるようにウエストは絞られたデザインのワンピース。そして短めのデニムのジャケットでスタイルアップと胸のカモフラージュを。そして春夏に向けてまだ寒いけど元気が出るような可愛いサンダルも合わせて。ひとつひとつ丁寧にこのアイテムと着方を説明し、試着室に入られました。お客様が出てくるまで気に入っていたかどうかどうかが不安でときどきしていたのを覚えています。

「見て～！」と旦那様を呼び、試着室から出られたお客様の顔は、とびきりの笑顔でした。「めっちゃかわいい。ええよな？ええよな？おっぱいわからへんよな？」と何回も旦那様に確認して、ずーっと鏡を見ながら涙を流していました。「このまま着て帰るわ」とまだ寒いのに裸足にサンダルで帰られていきました。そして店から出られるときに私の方に振り返り、「ハグしていい？」と苦しいぐらい強いハグと「ありがとう」を言って頂き、私の目頭が熱くなりました。私は、気に入ってくださってよかったという安心した気持ちと、お客様がまたファッションを楽しんでもらえたことが嬉しかったのです。

そしてまた、洋服ってこんなにも人の心を動かすものなんだと改めて実感しました。自分には合わない服を着た時には自分に自信がなくなり、やる気もなくなります。でも自分にぴったりと合った服を着ると、気分は上がり、自信が湧き、やる気も出てくるのです。もうそれは洋服の魔法のようです。あのお客様の悲しい涙がうれし涙に変わったように。

このことがあってから、私はますますファッションが好きになりました。そしてこの魔法

にかかる瞬間に立ち会え、そのお手伝いができるこの仕事が大好きです。